

# ヘル(HELL)

2003(平成15)年12月20日鑑賞(ユウラク座)



監督＝リンゴ・ラム／出演＝ジャン＝クロード・ヴァン・ダム／ローレンス・テイラー／マーニー・アルトン（アートポート、ギャガ・コミュニケーションズ配給／2003年アメリカ映画／97分）

……ロシアのクラヴァヴィ刑務所を舞台にくり広げられる生死を賭けた「スパルカ」での闘いと、謎の囚人451号との心の交流。そして最後はHELL（地獄）からの脱出劇。台湾生まれのリンゴ・ラム監督とジャン＝クロード・ヴァン・ダムがコンビを組んだ壮絶なアクション活劇だがその出来は……？

## 導入部は妻のレイプ殺人事件

今日、ロシアのクラヴァヴィ刑務所に主人公のカイル（ジャン＝クロード・ヴァン・ダム）が収容されてきた。

カイルの罪は殺人罪。愛する妻がレイプ犯に殺されたにもかかわらず、その犯人は証拠不十分で無罪。

「そんなバカな！」と怒り狂ったカイルは、裁判所内で犯人を射殺。復讐を遂げたものの、カイルの終身刑はやむをえないものだった。

## クラヴァヴィ刑務所とは

クラヴァヴィ刑務所には、マフィアを筆頭に世界各国の凶悪犯が収容されていた。ロシア人の看守は買収が当たり前。また、看守長のクルストヴ將軍（ロイド・パティスタ）は、囚人同士を死ぬまで闘わせる、「スパルカ」を主催し、これに金を賭けて楽しんでいた。

## カイルは絶望状態に……。

そんなクラヴァヴィ刑務所の中、新米囚人のカイルは、古株の囚人たちや意地悪な看守たちからいじめられては反抗し、懲罰を受けてはまた反抗し、次第に絶望的な状態に……。そして懲罰牢の中でカイルは自殺を図るが、それもかなわず……。

## 超人的な主人公と謎の囚人451号

そんな中、カイルは「スパルカ」の闘士として闘い、生きていくことを決意した。何かに取り憑かれたように、特訓を重ねるカイル。そしてカイルは狂ったどろ猛な動物のように、ただひたすら相手を倒し、殺し続けた。そんなカイルに対して、「自分を見失っている」と声をかけたのは、黒人の謎の囚人451号（ローレンス・テイラー）。彼はいわば悟りを開いた哲学者。彼は長い間悩み抜いた末、この刑務所での暴力と賄賂にまみれた腐敗の実態を何としても世間に公表するという任務を自らに課していた。

そしてやがて、この2人の思いが通じ合い、クライマックスの地獄（HELL）からの脱出劇へ……。

## リンゴ・ラム監督の香港風活劇

リンゴ・ラム監督は1955年の香港生まれの監督。ジャン＝クロード・ヴァン・ダムとコンビを組んだ『マキシマム・リスク』（96年）でハリウッド進出を果たしたが、本作はそれに続く第2作目。ジョン・ウー監督に続いてハリウッドでのブレイクを狙っている監督だ。

本作はカンフー活劇ではないが、クラヴァヴィ刑務所内での「スパルカ」における男同士の闘いがメイン。

主人公が極限状態に至る設定や登場人物のパーソナリティはそれなりに面白いが、全体の出来としては今ひとつ……？

2003(平成15)年12月22日記